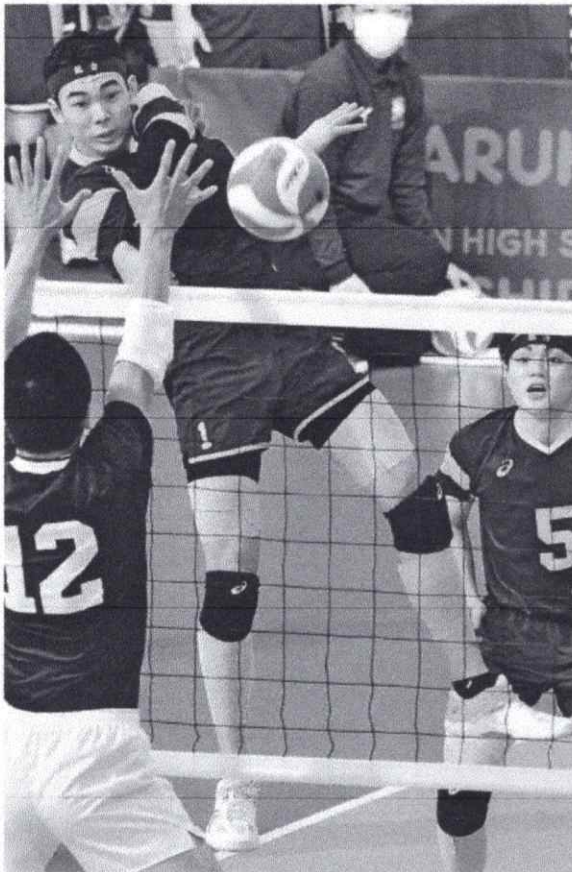


# 春高バレー



【男子準々決勝・雄物川-崇徳】第3セット、バックアタックを打ち込む雄物川の石塚

バレーボールの第74回全日本高校選手権大会（春高バレー）第3日は7日、東京体育館で男女の3回戦と準々決勝を行った。男子の雄物川は3回戦で県岐阜商（岐阜）に2-0で快勝。準々決勝でも崇徳（広島）を2-1で下し、8年ぶりに準決勝に進んだ。きょう8日の準決勝で前回優勝の東福岡（福岡）を破った日本航空（山梨）と対戦する。全国高校総体優勝の鎮西（熊本）と初出場の日南振徳（宮崎）も4強入りした。女子は2連覇を狙う就実（岡山）、高校総体覇者の下北沢成徳（東京）、古川学園（宮城）金蘭会（大阪）が準決勝に勝ち上がった。（加藤倫子）

## 雄物川、崇徳（広島）を撃破

▽男子準々決勝

雄物川 2 25 19 25 16  
崇徳 1 19 25 16

雄物川は粘り強いレシーブでボールをつなぎ、勝負どころを逃さなかった。第3セットの立ち上がり、石塚のブロックアウトで追い付くと、角田のブロック、クロサ、石塚のバックアタックなどで6連続得点を積み上げた。15-13と迫られたものの、

### ハイライト

崇徳（広島）との熱戦を制して準決勝進出が決まった。美大補監督の目にも涙が、あふれ「正直うれしか、相手は全国優勝の度

崇徳は第2セットを奪った先発に返された。しつこくサーブミスが目立ち、悪いく連攻に入って相手ブロックの流れを断ち切れなかった。1年生ブロッカーが躍動。雄物川のミドルブロックが士気高揚（1年）は、3回戦と準々決勝でいずれも

## 勝負どころ、強打決める

誇る高校バレーボール界、屈指の伝統校。第1セットはサウススポ・石塚選手が（3年）の強打が決まったが、相手のミスにも救われた。第2セットはアウトサイドヒッター角田（はやて、3年）が不調に陥り、19-25で奪われた。悪い流れを最終セットに引きずりかねない展開。アウトサイドヒッター海老大希（2年）やミドルブロッカー高橋一太（1年）らが粘り、石塚は「第2セットは嵐の顔が死んでいて『こいつ楽しんでない』と思っただ。嵐が立て直して、くれるのを信じてプレーした」と語った。スパイクが決まらず「むきになってしまった」という角田は、第3セットで息を吹き返した。センター方向からサイドに移動しながら攻撃を仕掛



アウトサイドヒッター陣を生かす役割を担った古屋（中央）